





国語問題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は二十ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
3. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか受験票と照合し確認すること。
4. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 解答は、必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
8. 文字は楷書で正確に書くこと。
9. 解答用紙は持ちかえらないこと。
10. この問題用紙は必ず持ちかえること。
11. 試験時間は六〇分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	  





(一) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

私が日本語で用いられている漢字のもつ特性や、日本語にとつての利点<sup>1</sup>について外国で講演をするとき、よく使う枕がありま  
す。それはニューギニア高地にすむパプア族の食物についての、ちよつと信じられない不思議な話です。それはこの部族の人々  
の年間の食事は、サツマイモなどの植物質が実に九六・四パーセントを占め、他にはたいした物を食べていないことが調べてみ  
てわかったのです。つまり彼らの食物には現代の栄養学では人間の健康に絶対不可欠な要素とされている動物性蛋白質<sup>たんぱく</sup>が殆ど含  
まれていないわけです。

**a** もしこの極端に偏<sup>かたよ</sup>った食事が原因で、パプア族の人々が現にひどく不健康な状態に置かれているのならば、何も驚  
く話ではないのですが、どういうわけかこの人たちは丈夫で、男の人はみな筋骨隆々としています。

このことを初めて聞き知った欧米の学者たちの反応は、このパプア族の人々は宗教上か何かの理由で、外部の人には見られな  
いようこつそり隠れて、野生の豚などを時々捕って食べているのだろうというものでした。それなら別に何の不思議もないわけ  
です。しかしその後一九七〇年に、オーストラリアのバーガーセンとヒスプレイが、このサツマイモだけを常食としているパプ  
ア族の糞便を調べ、空中の窒素ガスからタンパク質を合成する働きをするクレブシエラとエンテロバクターなどの細菌を、分離  
することに成功したのです。

**b** これらの人々は、何とこれまでの科学の常識を破って、呼吸する際に吸った空気の一部を消化管に送り、大腸にす  
み着いているこれらの細菌の力を借りて、空気に含まれている窒素を固定することで必要な蛋白質を摂<sup>と</sup>っていたのです。

これまでも生物による空中窒素の固定は、マメ科の植物が根瘤<sup>こんりゅう</sup>バクテリアによって行っていることは古くから知られていま  
したが、人間、つまり動物までもこれを行っていたとは驚きでした。このことに関連して、日本の禅宗の多くの僧侶たちが、植  
物質の食事だけで健康に長寿を迎えているのも、もしかしたら空气中の窒素をパプア族のように利用している可能性があるとの  
ことです。(中略)

さて皆さんはこの話が一体どこで漢字の問題に結びつくのかと思われるでしょうが、大いに関係があるのです。それはいわゆる一般に広く受け入れられている科学的と言われる常識や因果関係が、いつも正しいとは限らないことを、このパプア族のエピソードがはっきりと示してくれるからです。つまりあらゆる迷信と偏見から解放されて物事を客観的に眺めることが出来るようになった筈の西欧の科学者でも、まだまだ彼ら自身が殆ど自覚すらしていない、自分たち西欧人の持っている文化や世界観に基づく、偏ったものの見方や先入主から完全には自由ではないのです。

このことは特に人文科学とか社会科学と呼ばれる人間の社会の仕組みやあり方についての学問、そして人間そのものを扱う医学や薬学の領域での知見に多く見られるものです。科学者たちが客観的だ、普遍的だなどというとき、その判断の前提あるいは根底には、しばしば隠れた、観察者や研究者の意識にさえ上らない、かれらに固有の文化的な偏見や思い込みが潜<sup>ひそ</sup>んでいることを、このパプア族の食習慣が長い間正当な評価を受けずに、疑いの目で見られていたことは教えてくれるのです。

ところで言語学<sup>2</sup>や、心理学、哲学、社会学、宗教学、文学、法学、経済学、医学、薬学などには、いわゆる自然科学の分野の学問、たとえば数学や物理学、そして天文学や化学におけるような時空を超えた普遍性、客観性の強い学説がなく、知見や定説が結構しばしば変わるのは何故でしょうか。(一例をあげると私の若い頃は、盲腸は不要な器官だから暇なときに取っておくとよい、旅行中に炎症が起きたりすると大事になりかねないから、などと言われたものです。でもいつの間にか盲腸(虫垂)は大切な役目をする必要な器官だということになりました。これなども常識で考えてみれば、人間の体に不要なものなどあるはずがなく、もし要らなければ、とつくに退化して消えているはずだとどうして考えなかったのでしょうか)

それは私の見るところ、一般に学問の研究対象が人間から遠ざかれば遠ざかるほど、その学問の持つ客観的普遍性が増し、反対に対象が人間に近くなればなるほど、学問は不確実性を増すということがあるからなのです。

なぜかという人間にとって一番分らないものは、結局自分自身だからです。天文学や数学、物理化学といった理科系の学問が対象とするものは、人間が地上に出現する遙か以前の悠久の昔から存在し、そして人間がたとえすべて滅んだ後でも、この宇宙のある限り存在し続けるものです。これらの学問の研究対象は人間に依存するところが、全くか、あるいは殆どないのです。

しかし文科系の学問が扱う対象は人間に関するものか、あるいは人間それ自身であるために、人間がいなくなれば学問の対象そのものも消滅してしまうという、人間あつてのモノダネ的な、きわめて人間臭の強い、強く深く人間に依存して存在するものなのです。このように観察者と観察される対象がつかつていては、客観性など望むべくもありません。ですからこのような学問を、たとえ「人文」とか「人間」などという形容をつけたとしても、科学と呼ぶこと自体がそもそもおかしいのです。

文科系の学問の扱う問題は、科学的には扱えないからこそ面白くもあり、またそれだけに人間にとつて最も切実なものを扱うことが広義の文科系の学問であるはずなのに、人々はいつのか科学的でなければ学問とは言えないという、科学を万能でも權威あるものに祭り上げてしまったのです。そこで多くの学者はこの近現代の科学信仰という名の新興宗教の虜とりになり、何とか自分たちの関わっている、人間を対象とする学問までを科学的に見せようと思つて、やたらと数式を使つたり統計学的な処理をしてみせたりするから、どんどん面白くなつてしまうのです。

もちろん人間についての研究のすべてが、科学的には行えないと言っているわけではありません。部分的にはかなり細かいことまでしつかり解明されている分野や現象はいくらでもあります。化学や物理学が解明に成功した問題も少なくありません。しかし人間に関するすべての細かな問題がたとえ科学的に解明されても、それらを総合すれば人間全体の理解の道が開けるわけではないことを私は言っているのです。

**c** 芸術作品の人の心を打つ美しさや、我々がそれから受ける感動、あるいは恋愛という身近ではあるが何とも不思議な心理現象を、いくら科学的統計的に分析しても何も出てきません。そして大学とは本来は人間とは何ぞやを探究する場であつて、もの作りは現場で行うものだったので。

ところがどの国でも現在はこの関係が逆転して、幅を利かすのは理工系、物理数学系、そして医学薬学系といった企業と密接な関係を持つ、成果の目に見える学問であり、純文科系である哲学倫理学や歴史文学などは、ただちに成果が社会に目に見える形で還元できるものでないだけに、あまり意気が上がらないようです。

**d**

私は世界を、そして人間を、西欧の人々とは違った角度から見ることで日本人の文科系の学者研究者は今こ

そ、欧米の学問や学説をただ鵜呑みにするのではなく、これまで数世紀の間、ほとんど出番のなかった非西欧世界からの有力な発言者として、世界の問題や人類の進むべき方向について独自の見解や提案を発表すべきときだと考えるのです。

これまで高名な数多くの内外の学者知識人が、日本語における漢字に対して下した様々な否定的評価も、近代以降の膨大な科学的言語研究の蓄積の殆どが、実は欧米人学者の手になるものであるために、彼ら自身も気付いていない、彼らに固有の様々な文化的バイアス<sup>\*</sup>がかかっている可能性があると考えるべきものなのです。

そこでこの日本語の漢字問題を、難しい学問的な議論や先入主を離れ、誰でも理解できる常識的な問題として、改めて日本人の立場にたって考えてみると、どうなるでしょうか。そこにはまさに先に述べたパプア人の話に通じる、全く同じ性質の

《 X 》があることが分かります。

その第一は漢字が時代遅れの、文字としては未発達の段階にある不完全な表記法だという思い込みです。確かに漢字の中には象形文字の名残を保持しているものも少なからずあるので、アルファベットののような進化を遂げた文字と比べれば、古代的な要素を残した文字組織だと言えます。

しかし肝心なことは、人類の様々な文字が古代から時系列的に、どのような道筋を通過して変貌を遂げてきたかということ、どの段階の文字が、ある特定の言語を表記するのに都合がよいかということとはまったく別の問題だということです。つまり文字の発達としては最終段階である単音表記型のローマ字が、数ある、しかも様々な性質を異にする人類の言語の全てにとつて、便利で合理的な文字であるとは簡単には言えないのです。

特に日本語のような全ての音節が、一つの子音と一つの母音との固い結合が基本であるような言語では、ローマ字アルファベットといった、子音と母音をすべて分けて、しかも両者に等しい大きさを与えて書き表す単音表記の文字よりも、仮名のような、一つの子音と一つの母音の組み合わせを融合させて、一つの不可分の単位とする音節文字のほうが、表記の効率が遙かに高いからです。もし日本語の文章をローマ字で書くと、仮名で書いた場合の約一倍半から二倍の長さになってしまいます。(中略)

文字の歴史を振り返ってみると、後に人類の諸文明の中心の一つとなるような文明が最初に発生したのが、中近東から地中海

地域でした。そしてこの地域の諸言語が、たまたま母音と子音の自由な結合を許すタイプのものであったため、単音表記は都合がよかったです。このようにして出来たアルファベットを、現在の西欧諸語がギリシヤやローマから受けつぎました。そしてこの西欧語を用いる人々が、近現代において世界の覇者となったために、結果としてアルファベットが文字としては最も進化した最良の表記法だとされるようになっただけです。

このようなわけで、言語のタイプが全くちがう日本語は、アルファベットとは相性が悪いのです。日本語はこれらの言語に比べて子音の独立性が極めて弱く、子音は必ず母音という支えというか後ろ盾がなければ、それだけでは言語音として存在できないのです。このことは音声学の訓練をしつかり受けていない普通の日本人にとつては、母音なしに子音だけを単独で発音することが大変に難しいということからも言えるのです。

e 日本語にアルファベットを無理に導入して、子音を母音からいちいち切り離して表記するのは、全く無理でしかも無駄なことなのです。

でも読者の中には、仮名はさておき、漢字は何としても発達の遅れた、不便でしかも数の多い煩雑な文字ではないかと言われる方が多いかもしれません。

しかし私がいまだに漢字を否定的にみる人々に向かって、何よりも先ず訊きたいことは、すでに述べたことの繰り返しになりますが、どうして近代日本はその悪い漢字をとにかくも棄てずに使い続けながら、わずか百年余りの間に、遅れた極東の一小国から世界の経済技術超大国の一員にまでなることが出来たのかということなのです。

これはまさに元気で健康に溢れて暮らしているパプアの人々を見て、サツマイモばかり食べていると健康に良いはずはないと思つた欧米の学者たちと同様、漢字は遅れた文字で社会の進歩発展を妨げるはずだという考えが、実はドグマ<sup>※</sup>、つまり「正しくない思い込み」であることに気付かず、目前のあるがままの現実、つまり日本が立派に発展したという事実と漢字が悪魔の文字であるということが、両立できないことに気が付かないだけです。何も身にまといたくない裸の王様を見て、「王様は裸だ！」と言えたのは、Y

（鈴木孝夫『日本の感性が世界を変える 言語生態学的文明論』による）



(注)

バイアス……先入観、偏見

ドグマ………独断、教条

問1 空欄a～eに入る最も適切な組み合わせを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- |   |   |     |   |     |   |      |   |      |   |      |
|---|---|-----|---|-----|---|------|---|------|---|------|
| ① | a | つまり | b | たとえ | c | しかし  | d | ですから | e | そこで  |
| ② | a | つまり | b | たとえ | c | ですから | d | しかし  | e | そこで  |
| ③ | a | そこで | b | つまり | c | たとえ  | d | しかし  | e | ですから |
| ④ | a | そこで | b | つまり | c | しかし  | d | たとえ  | e | しかし  |
| ⑤ | a | そこで | b | つまり | c | ですから | d | しかし  | e | たとえ  |

問2 傍線1「日本語にとつての利点」とあるが、ローマ字アルファベットに比べその他の日本語表記はどのような利点があるのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 単音表記型のローマ字アルファベット文字は、子音と母音の固い結合を基本としているが、音節文字である日本語の仮名は子音と母音の結合が緩いため、ローマ字アルファベットに比べると半分ぐらいの短さで書くことができる。
- ② 単音表記型のローマ字アルファベットは、子音と母音の両者に等しい大きさを与えて書き表すが、音節文字の日本語は子音と母音をそれぞれ別に組み合わせるため、ローマ字アルファベットに比べ視覚的に明瞭である。
- ③ ローマ字アルファベットは子音と母音を分ける単音表記であるのに対して、日本語の漢字や仮名は子音と母音の組み合わせによってできている音節文字なので、ローマ字アルファベットに比べ合理的に表記することができる。
- ④ ローマ字アルファベットは子音と母音をすべて分けて書き表すのに対して、日本語の仮名は一つの子音と一つの母音の融合によってできているので、ローマ字アルファベットに比べると遙かに効率が良く、短く書くことができる。
- ⑤ ローマ字アルファベットの単音表記文字は、子音と母音をいちいち切り離して表記するのに対して、日本語は子音と母音を結びつけて表記するので、ローマ字アルファベットに比べると遙かに合理的で覚えやすい。

問3 傍線2「言語学や、心理学、哲学、社会学、宗教学、文学、法学、経済学、医学、薬学などには、いわゆる自然科学の分

野の学問、たとえば数学や物理学、そして天文学や化学におけるような時空を超えた普遍性、客観性の強い学説がなく、知見や定説が結構しばしば変わるのは何故でしょうか」とあるが、前者(言語学、心理学、哲学、社会学、宗教学、文学、法学、経済学、医学、薬学など)の学問と、後者(自然科学の数学、物理学、天文学、化学など)の学問とはなぜそのような相違が生まれると考えられるのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 後者の学問は人間から遠ざかった客観的普遍的なものであるのに対して、前者の学問は人間とは何ぞやを探究するものであり、科学的合理的に研究すること自体全く意味がないため。
- ② 後者の学問は人間とはおよそ関係なく宇宙のある限り存在し続け客観的普遍的であるのに対して、前者の学問は人間と密接に関わっており、人間が消滅してしまつたら無くなる不確実なものであるため。
- ③ 後者の学問は研究対象が人間とはほとんど関係のない客観的普遍的なものであるのに対して、前者の学問は人間と密接に関わっていて、観察者と観察される対象がつながっており不確実性が増してしまうため。
- ④ 後者の学問は宇宙の真理を究める客観的普遍的なものであるのに対して、前者の学問は人間の真理を究めるものであり感動がその中心となるので、客観的普遍的なものを望む必要がないため。
- ⑤ 後者の学問は人間臭のしない地上的な範囲を対象にしているのに対して、前者の学問は身近な関心のあるものだけを対象にしているために科学的な視点を持ち得ず不確実性が増してしまうため。

問4 空欄Xに入る最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 非科学的な意図
- ② 悲しい掟おきて
- ③ 常識的な思考
- ④ 偏見を伴った驚き
- ⑤ 思い込みの罍わな

問5 傍線3「パプアの人々を見て、サツマイモばかり食べていると健康に良いはずはないと思った欧米の学者たち」とあるが、

「欧米の学者たち」はなぜそのように思ったのか。本文中の言葉を用いて五〇字以内で述べよ。(句読点も字数に含む)

問6 本文には、次の一文がある段落の末尾から脱落している。どこに入るのが最も適切か。入るべき箇所直前の七字を抜き出せ。(句読点も字数に含む)

【脱落文】

しかも近代日本の、世界が驚く驚異的な進歩発展をもたらした日本人は、部分的な漢字制限を含む文字改革が戦後に行われる以前の、古い、今よりさらに煩雑な漢字と、発音と表記の乖離かひりの甚だしい旧仮名遣いの教育を受けて育った人々なのです。

問7 空欄Yに入る最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 一切の余計な思惑や先入主に囚われない、幼い子供だったことを思い出してください。
- ② 思っていることをそのまま言う、何も考えない子供であったことを思い出してください。
- ③ 先生や両親から道徳心を学んだ、正義感の強い子供であったことを思い出してください。
- ④ 迷信などを信じようとしめない、科学的思考を持った子供であったことを思い出してください。
- ⑤ 王様の権威や権力に屈しない、強い心を持った子供であったことを思い出してください。

問8 本文の内容と最も合致するものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 日本語の仮名はさておき漢字に関しては、やはりローマ字アルファベットに比べるとあまりにも数が多く難解なものなので、社会の進歩発展を妨げるという事実は正しい。
- ② 文科系の学問は科学的に扱えないからこそ面白いのであるにもかかわらず、数式を使ったり統計学的な処理ばかりするようになってしまっているが、このような研究方法をするべきでない。
- ③ 日本の禅宗の僧侶たちが、動物性のものをとらず植物性の食事だけでも長生きをしているのは、空中の窒素ガスから蛋白質を合成する仕方を利用しているのかもしれない。
- ④ ニューギニア高地のパプア族はサツマイモなどの植物質しか食べていないように思われているが、実は狩をする男達はこっそり野生の生き物を捕って食べているという事実も分かってきている。
- ⑤ 最近の日本では、成果が目に見え企業などと密接な関係を持っている理工系や医学薬学の学問の方が人気が高く、純文科系の学問の志願率が低いのは残念な現象である。

(二) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

わたしの場合も、どちらかと言えば戦争を知らない世代に属する。小学五年に敗戦を a たわたしにとっては、戦争とは「空腹」の記憶であり、夜空をこがしたクウシユウの炎のいろであり、いつてみれば少年の頃のたとえば魚釣りやトンボ取りと同じような回想の一駒であって、その意味では実体験としての「戦争」の悲惨とはそれほどのかかわりは持っていない。多分、大阪や東京でクウシユウに出あつた同じ世代の人たちと較べても、沖縄のさらに南の先島（ミヤシマ）で生活していたわたしは、かえって戦争から遠いところにいたと言える。だが、そういうわたしにとって、戦争体験が重要な意味をもつのは、わたし自身が沖縄の人間であり、沖縄にとって、さきにふれたように、その内実において戦争がとりわけ重要な意味を持っていると考えるからである。

明治の廃藩置県以後の沖縄の歴史と、その中で多くの屈折を持って生きてきた沖縄の人たちの意識が、その体験の中にはつきりとして b ているばかりでなく、敗戦後二十余年にわたるアメリカの軍事占領とその支配は、ある意味で戦争状態のケイゾク②であって、そういう状況が、更に沖縄の人たちの意識にさまざまな影響を与えてきている、ということがあるのだ。

橋川文三氏は、かつて

イエスの死がたんに歴史的事実過程ではなく、同時に、超越的原理過程を意味したと同じ意味で、太平洋戦争は、たんに年表上の歴史的過程ではなく、われわれにとつての啓示の過程として把握されるのではないか。(中略)……私たちが戦争という場合、それは超越の意味をもった戦争をいうのであって、そこから普遍的なるものへの窓がひらかれるであろうことが、体験論の核心にある希望である。

と述べて、太平洋戦争における戦争体験の意味を、あたらしい「歴史意識」の形成という点に求めた。

この橋川氏の言葉の中にある「われわれ」を「沖縄の人々」に c て理解してもらつてもよい。「普遍的なるものへの」の志向が沖縄という自分の生きている土地において、そして生きている土壤を対象化することを通して、実現できるかどうか、と

いう問いが、多かれ少なかれ沖縄で沖縄戦の体験の意味を考えようとする若い世代にあらわれている事は、たしかなのである。

たとえば、戦争を記憶しない世代の中で、現在、国家を相対化する思想の構築を主張したり、沖縄の自立を思想の面で図らなければならぬということをお説く人たちが、かなり出て来ている。これらの主張の根源にあつてそれを d ているのは、かつて天皇制国家としての「本土」を志向し、「本土」と同質化しようとする努力がどのように無惨な結果を招いたか、という沖縄戦における歴史的な事実と、敗戦後の二十余年の間、「国家」の呪縛からある程度自由であつたという歴史的体験である。

太平洋戦争は、日本にとってひとつの大きな転機となつた、というのは、ある程度事実である。本質的なところではすこしもかわつていないという見解や、昭和の初期と共通する要素が現在もかなりあるという指摘もあつて、戦後をどのように評価するかということについての意見の対立はあるのだが、政治や法律の制度や理念の面でも、あるいは生活の様式の面でも、太平洋戦争以前と異なつた面が多いということは否定できないであろう。しかしながら、ここでは国家について、同一民族、同一言語を用いる島嶼国家としての単一性については、その間に何の変質もあらわれなかつた。そこでは「日本人」であることと「日本国民」ということは、そのまま同義であつた。ひとつの国家にさまざまな人種がおり、さまざまな人種や民族によつて一国家が形成される欧米とは異なつた性格を持つていた。人々は生れて、意識するとしなやかかわらずでに日本国民であること、それ以外の存在ではありえないことについて、何の疑問も持たない。たとえどのような尖鋭的な思想の立場に身を置こうと、日本国民であるということ、それが意識の表に浮かぶことのないほど、自明の前提であつた。自分が男性であり、あるいは女性であるということが自明であるように、日本国民であることは自明であつた。したがつて日本国とは何であり、日本国民とはどういう存在であるかということ、問うことはほとんどなかつた。自分が日本国民であるということが自分自身にとってどのような意味をもつのか、という問いかけは無意味なことであつた。「日本国憲法」の条文のあれこれについて、その意義や解釈は盛んに説かれ、論議がくりかえされたが、その「日本国」とは何であるかは、ほとんど大きくことはなかつた。さまざまな、細かい具体的なことについてはいろいろと説明はされたのだが。

しかし、沖縄はそうではなかつた。沖縄について、アメリカ軍の軍事占領とその支配のもとでは「無から出発しなければなら

なかった」とよく言われるが、その「何にもない」という沖縄の状況は、国家さえも e ていないという状況であったのだ。「本土」の人たちにとって自明の前提である、「日本国民」であるというのは、沖縄の人たちにとって決して自明ではありえなかった。それはむしろ成長していくにつれてみずから獲得していく意識であった。とりわけ戦後世代にとってはそうであったといえる。沖縄の戦後世代にとっては、z

それは、戦後世代にとってばかりでなく、太平洋戦争以前の、いわゆる「皇民化教育」のなかで、沖縄の人間であることの自己否定を余儀なくさせられ、日本国民であることを強制されるなかで自己を育てあげてきた戦前・戦中の世代にとっても、沖縄戦の敗北による惨劇と、その後の国家が e ないという状況は何らかのかたちで影響をあたえるものであったにちがいない。沖縄の人間としての自己否定と、日本国民であることを強制され、みずからも日本国民として同質化を希求して努力したあげく、戦争の惨禍<sup>⑤</sup>にみまわれ国家を奪われたという状況は、すくなくとも、そこに国家というものと自己との間にある種のカクゼツ<sup>⑥</sup>を意識せざるをえないという状況をつくりだすにちがいない。あるいは、疑いをえない前提としての日本国民であるという意識は持ちえないことになり、そこでも、何よりも沖縄の人間であるということの方がむしろ強く意識されたといえる。

(岡本恵徳「水平軸の発想」による)

問 1 傍線③、④、⑤の漢字の読み方を、それぞれひらがなで記せ。

問 2 傍線①、②、⑥のカタカナを、それぞれ漢字に直せ。(大きく明瞭に書くこと)

問 3 傍線 Y の意味内容を具体的に表す箇所を本文中から探し出し、十五字以内で記せ。(句読点も字数に含む)



問4 空欄

a

b

c

d

e

に入るべき語句の最適の組み合わせを①～⑤から一

つ選んでマークせよ。

- ① a、あたえられ      b、支え      c、おきかえ      d、あらわれ      e、むかえ
- ② a、むかえ      b、あらわれ      c、おきかえ      d、支え      e、あたえられ
- ③ a、支え      b、おきかえ      c、あたえられ      d、むかえ      e、あらわれ
- ④ a、むかえ      b、あらわれ      c、支え      d、あたえられ      e、おきかえ
- ⑤ a、支え      b、あらわれ      c、おきかえ      d、あたえられ      e、むかえ

5 傍線Xの「普遍」に近い言葉の組み合わせとして最も適切なものを①～⑤から一つマークせよ。

- ① 記憶、体験、啓示
- ② 事実、歴史、超越
- ③ 歴史、原理、体験
- ④ 制度、理念、歴史
- ⑤ 超越、啓示、原理

問 6 空欄乙に入るべき文として最も適切なものを①～⑤から一つ選びマークせよ。

- ① 日本国民であるより前に、沖繩の人間であったのだ。
- ② 日本国民でもなく、沖繩の人間でもなかったのだ。
- ③ 日本国民でもあり、沖繩の人間でもあり、またアメリカ人でもあったのだ。
- ④ 日本国民でもあり、沖繩の人間でもあったのだ。
- ⑤ 沖繩の人間であるより前に、日本国民であったのだ。

問 7 本文の内容と最も合致するものを次の中から一つ選びマークせよ。

- ① 沖繩の人々は、戦後の出発から本土との間の経済の格差を蒙ったおかげで、日本人という実感を失い、またアメリカによつて統治されたことから、沖繩の人間であることに目覚めていった。
- ② 本土ではもっぱら空からの攻撃であったが、沖繩の人々にとつて戦争は地上戦であったので、その被害感覚はとてつもなく甚大であり、この強烈な体験が日本国民との繋がりを完全に断ち切ってしまった。
- ③ 戦前に日本人になることを強制され、また地上戦という悲惨な体験を重ね、さらに国家が自明な状態として感覚されない期間が存在した結果として、沖繩の人々にとつて日本国民であることは自明ではないものとなった。
- ④ 地上戦に巻き込まれた沖繩の人々にとつて、太平洋戦争は神の啓示に近い感覚をもたらしたことになるが、地上戦のなかった本土の日本人にはそのような感覚は生まれることはなかった。
- ⑤ 日本人が日本人であることは自明であるのだが、廃藩置県を経、さらに戦前に「皇民化教育」を受けた沖繩の人々は、精神的なトラウマが激しく、元々から日本人になることに躊躇する人間が大半であった。

(三) 次の文は、『大鏡』の一節である。この文章を読んで、後の問に答えよ。

敦敏\*あつしの少将の子なり、佐理大弑すけまろのたい、世の手書てのてがみの上手。任\*まかはてて上あられけるに、伊予国いよのくにのまへなる泊まりにて、日ひいみじう荒れ、海うみのおもてあしくて、風かぜおそろしく吹きなどするを、少しなほりて出でむとしたまへば、また同じやうaになりぬ。かくのみしつづ日頃過ぐれば、いとあやしく思おもひて、もの問\*ひたまへば、「神かみの御み崇たか」とのみ言ことふに、さるべきことbもなし。いかなることbにかと、怖おそれたまひける夢に見えたまひけるやう、いみじうけだかきさましたる男のおはして、「この日の荒れて、日頃cここにc経たたまふは、おのれがしはべることなり。よろづの社dに額dのかかりたるに、おのれがもとにしもなきがあしければ、かけむと思ふに、なべての手てして書かかせむがわるくはべれば、われeに書かかせたてまつらむと思ふにより、この折eならではいつかはとて、とどめたてまつりたるなり」とのたまふに、「たれとか申す」と問とひ申したまへば、「この浦eの三島eにはべる翁eなり」とのたまふに、夢のうちにもいみじうfかしこまり申すと思おもひに、おどろきたまひて、またさらにもいはず。

さて、伊与へわたりたまふに、多くの日荒れつる日もなく、うらうらとなりて、そなたさまに追風吹きて、飛ぶがごとくまうで着きたまひぬ。湯度々浴あみ、いみじう潔齋けつせして、清きよまはりて、昼\*の装束まつぷして、やがて神の御前みまへにて書きたまふ。神司かみじども召し出だして打たせなど、よく法のごとくして帰かへりたまふに、つゆ怖おそるることなくて、すゑすゑの船ふねにいたるまで、たひらかに上りたまひにき。わがすることを人間にんげんにほめ崇たかむるだに興おこあることにてこそあれ、まして神の御心みこころにさまでほしく思おもひけむこそ、いかに御心みこころおごりしたまひけむ。また、おほよそこれ6にぞ、いとど日本第一にっぽんの御手みでのおぼえはとりたまへりし。六波羅蜜寺ろくはらみつでらの額かみも、この大弑たいの書きたまへるなり。されば、かの三島の社dの額dと、この寺のとは同じ御手みでにはべり。

(注)

\*敦敏の少将……藤原実頼の子。藤原佐理の父。左近衛少将であった。

\*大式……佐理は太宰大式であった。

\*任はてて……任期が終わって。

\*もの問ひたまへば……占ってもらいなさると。

\*三島……伊予国の大山祇神社のこと。

\*昼の装束……正装である束帯姿のこと。

問1 傍線1「さるべきこともなし」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 伊予国から急いで立ち去る必要もない。
- ② 占いが正しいという証拠もない。
- ③ 神罰を恐れる理由もない。
- ④ これ以上留まることもない。
- ⑤ 神の崇りを受けるようなおぼえもない。

問 2 傍線 2「なべての手して書かせむ」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① すべての人に書かせる。
- ② 無理強いして書かせる。
- ③ 多くの人に書かせる。
- ④ ありふれた筆跡で書かせる。
- ⑤ 他の人に書かせる。

問 3 傍線 3「われ」とは誰のことを指しているか。文中の語で答えよ。(五字以内)

問 4 傍線 4「かしこまり申す」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 自分の腕前を過大に評価されたため、恐れおののいてお受け申した。
- ② 神からのご依頼であったため、恐れ謹んでお話をとお受け申した。
- ③ 内心の不安が露呈しないように、恐怖しつつお受け申した。
- ④ 年長者からのご依頼であったため、恐怖のあまりそれをお受け申した。
- ⑤ 早々に帰京しなければならぬため、恐れながらお受け申した。

問5 傍線5「さらにもいはず」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 冷や汗をかいたのは、言うまでもない。
- ② 佐理の書道の腕前は、言うまでもない。
- ③ 書くことを決めたのは、言うまでもない。
- ④ 佐理のおどろきぶりは、言うまでもない。
- ⑤ 天候がおさまったことは、言うまでもない。

問6 傍線6「これ」の内容を説明するものとして最も適切なものを次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 逆境の中、冷静さを忘れず、的確に事態に対処したこと。
- ② ただ書道の腕前を披露したのではなく、礼にのっとったこと。
- ③ 物怖じすることなく神の御前で立派に書をしたためたこと。
- ④ 自らの腕前で、己のみならず同行者の窮地も救ったこと。
- ⑤ 人だけでなく神にまでその書道の腕前を見込まれたこと。

問7 出題ミスのため削除

問 8 藤原佐理と同じく、三跡として知られる人物を次の中から一つ選んで、番号をマークせよ。

- ① 空海
- ② 尊円法親王
- ③ 橘逸勢
- ④ 嵯峨天皇
- ⑤ 小野道風











